

行政のサポートを受け 運賃3割アップを実現

会社概要 川里運輸倉庫株式会社
 設立：1973年4月
 所在地：埼玉県さいたま市北区日進町1-714-1
 従業員数：22名



背景・きっかけなど／価格転嫁が進みにくい運輸業界

運送業界で価格転嫁が進まない一つの理由に、多重下請け構造があります。

元請け→一次下請け→二次下請けへ外注される中で利幅が薄くなり、下請け企業においては利幅が薄くなるほど価格転嫁に応じる余力が残らなくなるため、価格転嫁を実現できる企業が少なくなるというものです。

同社も、利益確保のためコスト抑制に努めてきましたが、近年燃料費やトラックの部品、車検費用なども上昇する中、自社の努力だけではどうにもならなくなってきました。

「このまま廃業してしまったほうが良いのでは、という思いもよぎりました。」
 （島村夕紀子取締役）

窮地に陥った同社は、大口取引先に運賃の価格引上げや、付帯作業の資材負担について相談を持ち掛けましたが、結果はゼロ回答でした。

知識を身に着け、県のサポートを受けて再度価格交渉へ

こうした中、関東経済産業局が実施したアンケート調査「価格交渉促進月間（2023年3月）フォローアップ調査」のヒアリングに協力したことが、知識を得るきっかけとなりました。

「アンケートを読んでいるうちに、運送業界の2024年問題の論点や、原材料価格高騰に対する国の中小企業政策などが分かり、きちんとした値上げ交渉の方法を知りたくなりました。」
 （島村取締役）

そこで埼玉県の価格転嫁支援事業を紹介された同社は、県から委託を受けた埼玉県中小企業診断協会の会員による伴走型支援を受け、取引先との価格交渉に再度取り組むことになりました。



同社事務所



サポートを受けて準備した資料

<ポイント>

- 一度断られても諦めず、県の伴走型支援を受けて再度価格交渉を実施
- 行政発出の文書を活用し、理論武装
- 精緻な原価計算から事業継続可能な運賃を試算して交渉へ

必要資料を作成するとともに、行政が発出した文書を準備

アドバイスをを受けて最初に作成したのは、同社の原材料価格の現状を説明する原価計算の資料です。

燃料油価格、ディーゼルエンジン車の排気ガスをクリーンにするため必要な液体「アドブルー」、事務用品、タイヤ、セキュリティシステムの保守料金など。また、コストアップの要因となる仕入先からの値上げ通達書類をファイリングし、精緻に原価計算を行った上で、事業継続可能な運賃を試算しました。

それらに加えて、行政機関から発出された公的文書等も準備しました。

国土交通省自動車局貨物課名で発出された『価格交渉促進月間における取組の推進について』、2022年12月末に公正取引委員会が公表した「優越的地位の濫用」に該当するおそれのある13社を公表したニュース記事などの参考資料をそろえ、理論武装して交渉に臨みました。

交渉の結果 運賃の値上げに成功 配送ルートの見直しにより生産性向上も実現

値上げの緊急性が最も高い取引先から交渉を開始しました。以前はまともに協議できなかった会社でしたが、2トン車運賃の値上げ30%を実現しました。

もう1社の運賃は希望どおりにはなりませんでした。近距離の業務を多く手配してくれるなど、配送ルートの全面的な見直しに協力をいただきました。これにより、ドライバーの拘束時間が減り、生産性向上が実現しました。

<企業からのコメント>

なかなか価格転嫁が進まない運輸業界で、ようやく交渉のテーブルにつくことができた段階です。

原材料価格高騰分の一部が転嫁できたので、今後はドライバーの賃上げを実現するべく、国土交通省が2024年3月に告示した、『標準的な運賃』を目標に、引き続き取り組んでいきたいです。



島村夕紀子取締役